

アマクサクラゲの半世紀ぶりの和歌山県白浜町への出現

久保田 信*

Shin KUBOTA : Appearance of *Sanderia malayensis* at Shirahama,
Wakayama Prefecture, Japan after half a century absence

はじめに

アマクサクラゲ *Sanderia malayensis* Goette は南日本の太平洋岸や日本海側で遭遇する例が多く、扁平な傘の直径が 10 cm に達する南方系の鉢クラゲである。刺胞毒が強く、人が刺傷されると痛むので注意すべきクラゲである。今回、本種の 3 個体が半世紀ぶりに白浜町沿岸へ出現したので記録する。

記 録

1. 2011 年 12 月 31 日 瀬戸漁港へ死亡漂着个体 (図 1)

本個体は傘径 95 mm で十分に成長している。長く伸びたフリル状の口腕は薄紫色で、4 本の内、2 本が欠落していた。根元にある口は裂けていた。傘縁に砂をかみ、少数の放射管内に入り込んでいた。緑弁は 28 枚が確認できたが、傘縁が傷んでいるので実際はもう少し数が多い。各緑弁の中央に触手と感覚器が交互に形成されてお

り、それぞれが 13 ずつあった (他の少数が欠落)。4 箇所にある多数の指状突起からなる生殖巣はむきだしになり、突起数も少なくなっていた。生殖巣も口腕と同じ薄紫色であった。外傘全体にいぼ状の突起が多数あったが、その中の刺胞は擦れのため消失していた。

2. 2012 年 5 月 24 日 瀬戸漁港へ漂着した生体

海表面を漂うホンダワラ類に触手や口腕が絡んで全く身動きがとれなくなった大型の 1 個体 (直径 15 cm で最大記録に成長) が流れ着いた。放射管が 40 本あり、傘縁の緑弁も同数あるはずだが 7 緑弁は傷んでおり、7 感覚器が欠落していた。各緑弁のくびれた中央奥に、触手あるいは感覚器が 1 個ずつあり、これらは交互に形成されていた。全てで 13 触手を確認したが、その内の 7 触手が欠落していた。4 生殖巣はよく発達しており、1 個の生殖巣には 30 の扁平な囊がぐるりと輪になって並んでいた。その内の 1 囊を検鏡すると多数の卵が確認され、

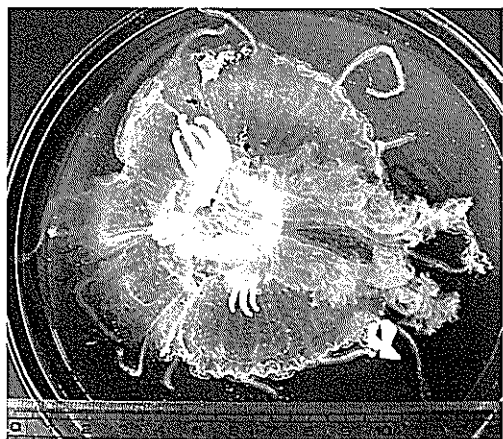


図 1 2011 年 12 月 31 日に瀬戸漁港へ死亡漂着したアマクサクラゲ



図 2 京都大学白浜水族館で 2012 年に飼育展示されているアマクサクラゲ (山口一夫氏撮影)

* 〒 649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama-cho 459,
Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan.
e-mail: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

餌であることが判明した。

上記2個体は著者により発見・採集されたが、もう1個体（傘径6 cm程度）は2012年5月初旬に京都大学白浜水族館のスタッフにより、白浜半島先端に位置する番所崎で採取され、その後は白浜水族館で目下3.5ヶ月間飼育展示されている（図2：紀伊民報，2012）。

アマクサクラゲは1950年代半ばには田辺湾では普通種で夏に多産していたが（YAMAZI, 1958）、少なくともここ20年ほどは田辺湾周辺海域に出現していない（久保田，2004）。今回の3個体とも発見時期が夏でなく、他の場所から偶然に流されて来た可能性が高く、白浜よ

り南方海域が供給源であろう。

引用文献

- 紀伊民報. 2012：アマクサクラゲ初展示 白浜・京大水族館（2012年5月24日付記事）。
- 久保田 信. 2004：和歌山県白浜町番所崎の通称“北浜”へ漂着した大形クラゲ類の異例な季節変化—前報との比較を含めた続報—。漂着物学会誌, 2, 25-28.
- YAMAZI, I. 1958：Preliminary check-list of plankton organisms found in Tanabe Bay and its environs. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 7 (1), 111-163.